祝 百歳おめでとう

市は、6月に満百歳を迎えた2人に記念品を贈り、長寿を祝いました。

憑子（つきこ）アヤ子さん＝江刺区愛宕字八日市＝は同区米里に生まれ、23歳で故・亘さんと結婚して開拓団として満州へ。1男3女をもうけましたがいずれも死別し、亘さんもシベリア抑留で亡くなりました。終戦後は米里の実家へ戻り、種山牧場に勤務。職員の食事などを用意し、特に満州の餃子は人気があったそうです。

現在は甥や姪らに支えられ、施設で穏やかに暮らすアヤ子さん。「百歳は皆さんのおかげです。ありがとうございます」と周囲に感謝していました。

アヤ子さん（前列中央）の百寿を親族がうちわを掲げてお祝い

菅原ツエさん＝水沢区字川原小路＝は金ケ崎町に生まれ、昭和13年に故・武男さんと結婚。養子をもらい、現在は孫3人、ひ孫3人に恵まれています。手先の器用さを生かし、和裁の教師として家計を支えたツエさん。97歳まで続けた短歌を趣味とし、お嫁さんとの共同作品で入賞した経験もあります。

デイサービスに通う施設で、サプライズの百歳のお祝い会に驚いたツエさんは「何の準備もしていなくて、もっと美人にして来れば良かった。ここで皆さんにお会いするのが一番の楽しみ」と照れを隠しながら喜びを語っていました。

家族とともに100歳となったこの日を祝うツエさん

市民提案型協働支援事業（第２回審査分）認定事業の公表

28年度市民提案型協働支援事業の第２回審査には、11団体から事業の提案がありました。「協働の提案テーブル」での話し合いを行い、６月６日に開催した市民公益活動団体支援事業審査会でのヒアリングによる事業審査の結果、下表の９事業を認定しました。

■問い合わせ＝本庁地域づくり推進課市民活動係（江刺総合支所・内線322）

■ 28年度市民提案型協働支援事業補助金（第２回審査分）認定事業一覧

団体名	事業名	コース	総事業費(円)	補助金額(円)
子どもの未来を育てる「群」の会	夢膨らむ科学体験2016“巨大クジラバルーンづくりに挑戦！”	ステップアップ	210,000	157,000
ひめかゆ協力会	「甦れ、フラワーガーデン!!」ひめかゆ周辺花いっぱい大作戦パートⅢ	ステップアップ	792,870	300,000
奥州前沢よさこいＦｅｓｔａ実行委員会	奥州前沢よさこいＦｅｓｔａ	ステップアップ	1,355,261	300,000
公益社団法人水沢青年会議所	『奥州郷土愛プロジェクト』	ステップアップ	891,600	300,000
奥州市世界遺産登録候補地ガイドの会	世界遺産拡張登録応援事業	ステップアップ	128,740	86,000
公益社団法人江刺青年会議所	Ｏｎｅ Ｌｏｖｅ フェスタ2016	ステップアップ	1,860,000	300,000
奥州カヌー愛好会	水源地域カヌー振興事業	チャレンジ	144,000	100,000
郷土の歴史文化保存推進協議会	地域の歴史文化の再発見事業	チャレンジ	100,000	100,000
百鹿・群舞絵画展実行委員会	百鹿・群舞絵画展	チャレンジ	110,000	100,000

■補助金コース・補助率

チャレンジコース
発足５年以内の団体（実行委員会除く）が新規で行う公益事業が対象（１団体２回まで）・10/10以内（上限10万円）

コラボレーションコース
複数団体（活動実績１年以上）が協働して行う公益事業が対象（１事業２回まで）・４/５以内（上限20万円）

ステップアップコース
ＮＰＯ、事業者、実行委員会などが行う公益事業が対象（１団体原則３回まで）・３/４以内（上限30万円）

第３回審査分の提案事業を募集

９月開催予定の第３回審査への提案事業を募集します。

▶**受付期限**　８月10日㈬午後５時

▶**申し込み方法**＝申込先で配布する協働の提案シート（市ホームページからもダウンロード可）と必要書類を提出

▶**申込先**＝本庁地域づくり推進課市民活動係（江刺総合支所・内線322）、市民活動支援センター（メイプル地下・☎㉒4200）

希望のひかり

第36回

市が実現に向けて取り組んでいる「国際リニアコライダー（以下、ILC）計画」について最新情報をお届けします

ILCシンポジウム「ILC実現と地域社会の展望」（いわてILC加速器科学推進会議主催）が6月11日、市文化会館（Zホール）で開催されました。今回は、このシンポジウムの講演要旨などを紹介します。

基調講演「ILCと地方創生」

ILC計画は各機関での取り組みにより、実現に向けて良い方向に進んでいるが、今後は、関係するそれぞれの立場でどういう地域を作るべきかを検討する必要がある。

ILCの建設の費用・人材の国際分担は各国で統一したやり方で行う必要があり、世界中の研究施設の分室を置き、全体の費用負担を抑える形を目指すのがよい。

居住環境面は大規模整備ではなく、今あるものを活用しつつ足りないものを補う方向がよい。

多文化共生はそれぞれ意識の壁があり、なかなかすぐには進まない。現在ILCキャラバンという形で、各地域で在住外国人を講師に、国際化に関する取り組みをしており、徐々に県民の意識を変えていきたい。

産業面はILCに活用される加速器技術がさまざまな分野で有効活用されており、ILCが実現し、さらに性能が上がることでもっと多くの産業に活用できる。またILCでは多くの電力を必要とするが、省エネルギーおよび排エネルギーの有効活用についても検討を進めている。――**岩手県立大学・鈴木厚人学長**

パネルディスカッション

東北大学・岩手大学の吉岡正和客員教授がコーディネーターを務めたパネルディスカッション「わがまちの未来絵図とILC」では、平泉ナンバーエリアの4市町の首長らが、まちの将来像やILCとの関わりについて意見を交わしました。

勝部修・一関市長　雇用の創出につなげたい。地元の熱意を中央の人に届けるために、情報発信のあり方を戦略的に取り組まなければならない。

青木幸保・平泉町長　地域の農業や文化を守り伝えることが、研究者の居住区として癒しの空間づくりになる。

高橋由一・金ケ崎町長　候補地に隣接する町として、町の特色をILCとの関わりとの中に生かす必要がある。各地が役割・機能を分担、補完し合えば、全体としての地域活性化が期待できる。

小沢昌記・奥州市長　ILCはイノベーションの基になる存在。私たちに新しい生活の形を見いだしてくれるだろう。

「ILCと羽田の未来を考える」意見交換会

市ILC推進連絡協議会および羽田地区振興会は6月18日、ドイツ・マインツ大学の齋藤武彦教授を講師に、羽田地区センターで地区住民を対象とした意見交換会を開催しました。

齋藤教授は、ドイツの研究機関での経験から、ILCによって地域がどう変わるかについて講演。参加者からはさまざまな意見・質問が出され、活発な意見交換となりました。

齋藤教授の話に聞き入る参加者

ILC出前講座

市は、ことし4月に策定した「奥州市ILCまちづくりビジョン」の説明を含め、地域などの依頼に応じて随時、出前講座を行っています。ILCについて知りたいことがありましたら、お問い合わせください。

■本コーナーでは、ILC計画についての皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽にご質問ください。
■問い合わせ＝本庁政策企画課ILC推進室（内線412・415、FAX㉒2533、✉ilc@city.oshu.iwate.jp）